

2012年度

市立

2-3月号

(通巻 144号)

いちかわ 自然博物館だより

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

いきもの
写真館



撮影：土居幸雄さん

アズマヒキガエルのたまご（卵塊）
アズマヒキガエルは、ガマガエルのこ
とです。ヒモのような卵塊から浮き出
るようにおたまじゃくしが出てきます。

P 1 ☀ いきもの写真館
アズマヒキガエルのたまご（卵塊）

P 2 ☀ 同じ場所を何度か訪れる
3 江戸川放水路
1月29日

P 4 ☀ 花屋の花を観察する
スイセン

P 5 ☀ 街かど自然探訪
島尻 新しい町の新しい公園

☀ くすのきのあるバス通りから
真間川の野鳥

P 6 ☀ むかしの写真で見る 昭和の風景
ウラギク湿地

P 7 ☀ わたしの観察ノート
11月～12月ごろの記録

P 8 ☀ 行事案内



同じ場所を何度か訪れる 江戸川放水路 1月29日

【再生の気配を感じました】

冬の海では、日中よりも夜間に潮がよく引きます。そのため、昼間に干潟を歩こうと思うと、大潮にあたる満月や新月にちょうどあわせて行く必要があります。今回は満月の2日後、冬らしい快晴の日に江戸川放水路を訪れました。

今回、特に目についたのはアオサ類でした。アオサ類は透明感のある緑色をした海藻で、東京湾では珍しいわけではありません。しかし今回は、多数の小さな株があちこちから伸び出していて、一見すると萌え出す若草のようでした。よく見ると、どの株も二枚貝の殻から伸びて

います。砂から生えているように見える株も、砂の中に貝殻が埋まっているようでした。これらの貝殻の多くは、秋の大規模な青潮で死んでしまった貝の殻です。その殻が、海藻の新たな生育場所になったわけです。

海藻が茂ると、今度はその海藻を食べる生き物が増えます。あるいは海藻に卵を産み、小さな生き物は海藻に身を隠して生きていきます。死骸に埋め尽くされた青潮の日から4カ月。あくまでも見た目の印象に過ぎませんが、再生の気配が感じられました。



細長いアオサ類が水の動きにあわせて揺らめく

【足元を見ながら……】

冬はプランクトンの活動が低下する関係もあって、水の透明度が増しています。水中がしっかり見えるので、だいたいの深さを確かめながら長靴で歩いてみました。少し深くなると、もうアオサ類は目立たなくなりました。やはり水中まで光が十分に届く「浅さ」が重要なようです。

魚やカニには出会えませんでした。同じように水に入っていたコサギは時々何かを捕えていました。餌になる生物はいるようでした。



【掃除屋さん：アラムシロは元気】

水中をていねいに見ると、ところどころでアラムシロが山になっていました。アラムシロは死んだ貝やカニなどに群がり、その肉を食べてしまう掃除屋さんの巻き貝です。群がる周りを見ると、まだ次々にアラムシロが集まってきています。どれくらい遠くから這ってくるのか測ってみると、歩幅で23歩分のところまで確認できました。距離にして10m以上です。折からの北風で波立っていましたが、それでも匂いの方向がわかるのでしょうか。100匹を越すアラムシロが一目散に死骸へ向かっていきました。



【早くもカニの砂団子】

干潟のカニは穴の中で冬眠していることになっていますが、いつも、少しばかりの砂団子が見られます。寒さに強い個体がいるのでしょうか。コメツキガニのようです。

カニの砂団子がない干潟は、サラサラとした砂浜の印象です。春の訪れとともに砂団子が増え、ヤマトオサガニのような大きめのカニも姿を見せます。そうして干潟の1年が巡ります。



花屋の花を観察する

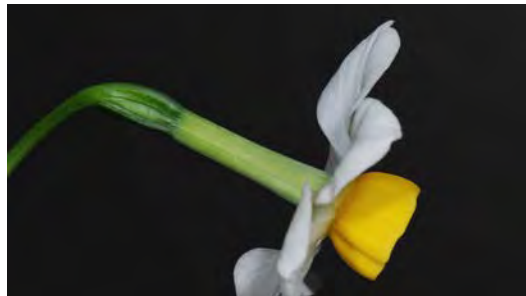
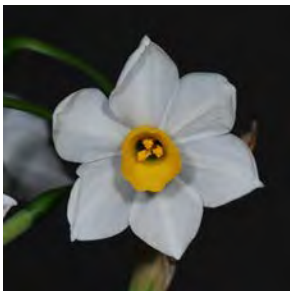
スイセン



お花屋さんの店先でスイセンの切り花や鉢植えを見かけると、春の足音を聞いた気分になります。特に日本スイセンは、春らしい花色と甘い香りで日本の早春を代表する植物のひとつです（外来植物ですが）。

スイセンの花はふつつ正面から見て楽しめますが、横からながめるとずいぶん違った印象を受けます。正面から見ると、6枚の花びらと中央の輪になった黄色い花びらが目立ちます。6枚の花びらは萼(がく)3枚と花

弁3枚が交互に並んで外見に違いがないので、合わせて「花被片(かひへん)」と呼びます。花被片は元の部分でくっついて筒状になり、後方へ長く伸びています。そのため、横から見るとラッパ形に見えます。ラッパの根元のふくらんでいる部分が子房で、実になる部分です(ただしスイセンは結実しません)。ラッパの内部には雌しべ1本と雄しべが長短3本ずつあり、雄しべの柄は筒の部分にくっついていて、柄がないように見えます。



左：正面。円形の花に見える。右：側面。ラッパ形の花に見える。

中央にある丸い黄色い花びらは「副花冠(ふくかかん)」と呼びます。従来の「花弁」「萼」の定義ではあてはまらないので、6枚の花被片の付属物として位置づけられています。



カッターで半分に切って内部を見えるようにした(雄しべ2本は切り除いた)。黄色い副花冠を目印に飛来した虫は、筒の奥まで蜜を取りに行く。その出入りの時に雄しべや雌しべに触れるので、結果的に花粉の運び役をこなすことになる。



街かど自然探訪

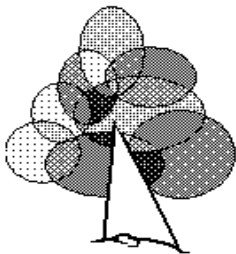
おじゃまします!

しまじり・新しい町の新しい公園

島尻第3公園はマンション街の中にある、植栽がちょっとおしゃれです。公園のフェンス際はふつうサツキ等ですが、ここはローズマリーの茂みにぐるり囲まれていて、真冬でも青々とした葉と可愛いブルーの花を楽しめ、夏には芳香も楽しめるでしょう。入口には背丈ほどのこんもりとしたミモザが、蕾をいっぱいにつけてしていました。中央には秋の紅葉がきれいなモミジバフウがあって、枝先にはリース飾りに使えるとげとげの実が、いくつかぶら下がっていました。



△わくわくバス（コミュニティーバス南部ルート
「島尻」バス停前



くすのきのあるバス通りから No.86

真間川の野鳥

「何か、春の兆しはないかな？」と双眼鏡とカメラを持って散歩にでて、富貴島小の北側の、道路建設中で殺風景な真間川をのぞいてみました。ハクセキレイが水面の上に何度も飛んでは、岸に戻っていました。自然博の方によると「ユスリカをフライングキャッチしているのでは？」とのこと。「ヒヨヒヨ」とカモのような鳴き声が聞こえたので、八方橋の方へゆくと、9羽のカモがいました。羽の色や特徴を頭に入れ、家で図鑑をみ

ると、ヨシガモ？に似ていました。オスは眼の辺りがきれいな緑色で、お腹側に細かい茶色の模様でした。メスは全体に茶色の細かい模様で、翼の一部に緑があるようでした。川沿いに植えてあるサクラには、数羽のキビタキがいました。ユリカモメは今年あまり見かけません。近所の家で、軒の壊れた所にムクドリが止まるぐらいに近づいて、また行ってしまいました。新居の下見でしょうか。

(M. M.)

むかしの写真でみる

昭和の風景

昭和49（1974）年 撮影

ウラギク湿地



写真提供 岩瀬徹氏

写真は、行徳野鳥観察舎の前面に広がる保護区（行徳近郊緑地特別保全地区）の造成当初の様子です。この場所は、行徳沿岸部の埋め立てに際して「野鳥の楽園」として残された区画で、新浜鴨場の前に広がっていた干潟と浅瀬を造成して作られました。

写真に写っている植物は、ウラギクという塩性湿地に生育する野菊の一種です。埋め立て地などに種子が飛来して一時的に大群落をつくることが知られていますが、まさにその状態が撮影されました。やがて植生の移り変わりに伴って群落は衰退しましたが、保護区内の地名として「ウラギク湿地」の名が残されました。写真上端には鴨場の木々が写っています。



◆長田谷津より

- ・湿地の草刈りをしていたら、草を刈ってどけた下にヒキガエルがいました(11/25)。背中が丸出しなので、まだ完全に冬眠していたわけではないようです。
- ・コブシに、とてもたくさんつぼみがついています(12/1)。この春はほとんどコブシが咲かなかったのも、その分も含め例年の5割増しくらいはありそうですね。3月が楽しみです。
- ・斜面林の枯れ枝などをボランティアの方たちと片付けました(12/23)。重なった枝をどかすと、ヤブコウジの真っ赤な実が見えました。

◆大野町より

- ・台地の縁を取り巻く斜面林に、羽状複葉の目立つ木がありました(11/13)。ムクロジ？ハゼ？などとあれこれ考えましたが、赤い実や葉の様子からカラスザンショウのようでした。市内では珍しい樹木です。

以上 金子謙一(自然博物館)

◆真間山より

- ・南側の斜面林下のシャッターの戸袋にコウモリがぶらさがっていて、びっくりしました(12/21)。気づかずシャッターを動かしたら、一びき下におちてしまいました。シャッターを閉めることができず、そのままにして出かけ、戻ってみると、もういなくなっていました。

M. T. さん

◆国府台より

- ・里見公園奥の林で見たカラ類の混群には、シジュウカラとメジロの外、少なくとも1羽のヒガラ、少なくとも3羽のキクイタダキ、ヤマガラ、コゲラがいて、とても賑やかでした(11/18)。

◆坂川旧河口一帯より

- ・ビオトープ池の周りの草地からベニマシコの鳴き声が聞こえてきました(11/25)。また、オギ原からはアリスイの音が、坂川旧堤防では複数のウソの鳴き声が聞こえましたが、いずれも姿を見ることはできませんでした。
- ・カイツブリ2羽がビオトープ池先江戸川の岸近くに仲良く浮かんでいるのを見ました(12/15)。しばらくすると1羽が可愛い声で鳴きましたが、もう1羽に呼びかけているように見えました。
- ・新堤防の上から上流部を見ていたところ、左岸の木から奥の木の中へと飛ぶコチョウゲンボウ雄1羽が目に入りました(12/22)。上面が明るい青灰色のため、雨が降る中でもよく目立ちました。わたし自身、初観察の鳥でした。

◆菅野より

- ・自宅の庭のアカマツの木に、ヒガラ2羽がやって来ましたが(11/11)。盛んに、幹を叩いていましたが、近くには同行するシジュウカラ2羽もいました。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

11月は雨が降ると大雨、12月に入ると晴れの日が多く、寒さが急に厳しくなって真冬の身支度が必要になりました。



行事案内



おやこ自然観察会

お申し込みが必要です。

親子で楽しむ自然観察です。

- ・場 所 自然博物館(市川市大町)周辺
- ・時 間 午前中 1時間半～2時間
- ・定 員 各回とも、先着20名、親子対象です。

テ ー マ	日 次	受付開始日
-------	-----	-------

お 花 つ み 4月14日㊥ 3月16日より

昆虫と水辺のいきもの 5月12日㊥ 4月20日より

昆虫と水辺のいきもの 6月 9日㊥ 5月18日より

お申し込み方法

受付開始日以降に
往復はがきで参加者全員の
住所、氏名、年齢、電話番号、
返信面に返信の宛先を明記の上、
下記までお申し込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地
自然博物館「〇月〇日観察会」
係まで

長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日 時 3月2日㊥、4月6日㊥、5月4日㊥、
午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

テ ー マ	日 時	場 所
早 春 の 林	3月10日㊥午前10時～11時30分	国府台～真間山
春 の 雑 木 林	4月21日㊥午前10時～11時30分	堀之内貝塚公園

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備 をお手伝いして下さいますか。(雨天中止)

- ・日 時 2月24日㊥、3月17日㊥、4月28日㊥、 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けの

お 手 伝 い を し て く だ さ い ま せ ん か。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日 時 3月3日㊥、4月7日㊥、5月5日㊥
(12月から2月はお休みです)
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館まで
お電話でお問い合わせください。

第24巻 第6号 (通巻第144号)

平成25年2月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>